

市政に対する

一般質問

区長の選挙活動を

どう考えるか

高橋議員 市長選挙や市議会議員補欠選挙での後援会に、区長の立場を利用して活動することは、公職選挙法第136条の2地方公務員等の地位利用による選挙活動の禁止に該当すると思うがいかがか。

市長 区長は、非常勤の特別職地方公務員として位置づけされている。

一般的な政治活動、選挙運動は禁止されていないが、その地位を利用しての選挙運動は、公職選挙

法第136条の2の規定により禁止されていることは承知している。

このため、選挙管理委員会では区長、町会長会議の際に、明るい選挙のパンフレットを配布するなど、公正な選挙執行の啓発を行っている。

工事検査の組織構成と 職員の技術資格は

高橋議員 工事の検査は、どのような体制で誰が実施しているのか。特に検査項目を判断できる職員は配属されているのか。

また、工事検査を行う職員は、専門的な知識を持つ技術的資格を持っているのか。持っていない職員が検査をすることで問題はないのか。

市長 真岡市建設工事検査規程に基づき、請負金額が500万円以上の場合、工事主管課で、課長担当係長、担当職員が請負業者立

会いのもとで課内検査をしている。その後、総務課の検査職員が、工事主管担当職員、請負業者立会いのもとで検査を行っている。

また、500万円未満の場合は、工事主管課において、工事主管課長が検査を行っている。

建設工事の検査は、県に準じて実施しており、検査方法はマニュアル化されている。検査担当職員の配置は、設計図書、施工記録、工事写真等の資料をもとに、工事現場において、検査項目が正確に判断でき、建設工事に精通している職員を配置しているため、適性な検査ができていくと考えている。

今後も県をはじめ、他市町と情報交換を密にして連携を図り、各種研修にも積極的に参加するなど、検査に必要な知識や技術の向上に努めていきたい。

SLキューロク館の

今後の展開は

七海議員 4月28日にオープンしたSLキューロク館の今後の展開について伺う。

市長 売店ではオリジナル商品を



SLキューロク館の開館式

子どもたちが楽しめ、何度も訪れてもらいたいと考えています。

メタンガスを活用した 再生可能エネルギー発電は

七海議員 水処理センターで発生するメタンガスによる再生可能エネルギーの活用について伺う。

建設部長 平成24年7月1日から電気事業者による再生エネルギーの調達に関する特別措置法により、再生可能エネルギー買取制度が始まった。この買取制度の対象のひとつにバイオマスによるメタン醗酵ガス化発電があり、これが水処理センターの汚泥処理過程で発生するメタンガスを利用し、発電する方法にあたる。

情報センターへの誘導については、展示物のパンフレットを置くとともに、駅構内全体の案内看板を設置した。

図書等の設置については、情報センター4階に子ども用のスペースを設置し、SLの絵本などを置くことを検討している。子ども遊び場の充実については、夏休みの土・日曜日に同センター4階でミニSLを運行し、イベント開催時には屋外でも運行させるなど、

水処理センターは、平成24年度のメタンガス発生量が年間約48万m³であり、そのうち約4割を汚泥処理の過程による汚泥消化タンクに加湿用ボイラーなどの施設暖房用ボイラー燃料として利用し、約6割は余剰ガスとして燃料処分している状況である。同センターでバイオマス発電を行うためには、新たに発電設備等を設けて既存施



明るい選挙のパンフレット

設と接続することが必要であるので、規模など現有施設でメタンガスを利用したバイオマス発電の有効性について調査研究していく。

芳賀赤十字病院の候補地選定の経過は

大根田(悦)議員 芳賀郡市町村会からの依頼内容はどのようなものか。また、候補地の土地の評価の検討はどのようになされたのか。

市長 芳賀赤十字病院より芳賀郡市町村会へ、地域内の人口、入院・外来患者数、立地等を考慮して、真岡市内に新病院を建設したい旨の話があった。

芳賀郡市町村会からは、候補地の選定にあたり、①現在の場所より遠くならないこと②真岡線沿線であること③交通アクセスしやすい場所であることなどの条件が付されて本市に依頼があった。

健康福祉部長 土地の評価は、他の病院建設候補地の評価基準を参考に、芳賀赤十字病院などからの要望を加えた評価基準、評点を表を作成し、候補地の評価を行った。この表は、評価項目、評価割合、

評価基準、評点で構成し、評価項目は12項目、評価割合は100などとした中で、合計点数により各候補地の評価を行った。

政策調整会議でも、評価内容の妥当性、公平性など検討を行った。

市庁舎建設計画の進捗状況は

大根田(悦)議員 市庁舎建設計画の進捗状況と検討委員会委員の選出方法を伺う。また、市民の意見を募集する考えはあるのか。

市長 市庁舎の建設については、庁内組織である庁舎建設検討委員会、12回にわたり検討している。新市庁舎建設基本構想(案)は、新庁舎建設の必要性、目的、基本方針、



市役所庁舎(五行川河畔より望む)

建設計画の概要など、8項目について様々な視点から検討している。今後、議会に対しては、建設候補地等についての協議、検討の段階で、基本構想(案)について説明する。

今年度以降、この基本構想をもとに、基本計画を策定し、市民を含めた庁舎建設検討委員会を設置する予定である。その際には、議会からも委員の推薦をいただく考えである。

市民からの意見に関しては、基本計画策定の段階で、多くの方から意見をいただき、基本計画ができた段階で、さらに住民説明会やパブリックコメントなども実施していく考えである。

風しんワクチン予防接種の公的助成を

荒川議員 妊娠を希望している女性やその夫へのワクチン接種費の助成を、早急に開始し、周知徹底に取り組みしてほしい。

市長 風しんは、比較的軽症のウイルス性発疹性疾患であり、風しんに免疫のない妊婦がかかると胎児が風しんウイルスに感染し、



風しんワクチンのリーフレット

難聴、心疾患、白内障などの先天性風しん症候群といわれる障がいをもって生まれる可能性がある。

本市では、妊娠届出をした方全員に、母子健康手帳交付時の面接で、妊娠初期に風しんにかかることの危険性や風しんの予防について、個別指導を実施している。

また、両親学級等でのリーフレットの配布やポスター、市ホームページ等で注意喚起を行うとともに、妊産婦を対象とした妊産婦健康診査の1回目において風しんウイルスの抗体検査等を実施し、風しん予防対策に取り組みしている。

風しんの予防接種費用の助成は、大都市圏で流行し、地方へも広がる方向で、指示したとおりである。

障がい者雇用環境の改善への取組は

荒川議員 障がい者がつくった製品や提供するサービスを優先的に購入するよう国や自治体に求める障がい者優先調達推進法の施行で、障がい者の雇用機会が広がると期待されている。本市ではどのように取り組み、推進していくのか。

市長 地方公共団体等が優先的に物品の購入や役務を発注することで、施設の安定した仕事が見込め雇用拡大につながると考えられる。この障がい者優先調達推進法の施行に先立ち、3月には、栃木県社会就労センター協議会等の代表が本市を訪れ、市の発注できる仕事と施設側で受注できる仕事等、話し合いを続けたことになった。

また、県では5月に栃木県障がい者優先調達推進方針を作成し、調達の対象となる障がい者就労施設や調達できる品目や方法等について定めている。

本市としても、県の方針を参考に、施設との話し合いを重ねて、法の趣旨に沿えるよう適切に対応していく。

大内中・二宮地区3中学校の 国際交流事業は

渡邊議員 大内中学校と姉妹校の北京市第五中学校とは、今後どのような交流を行うのか。また、二宮地区3中学校の姉妹校締結に向けた進捗状況を伺う。

教育長 大内中学校の国際交流は、中国との政治問題等で3年間交流が行われていない。今年度は受け入れる年度であり、10月4日から12名の生徒が来校する予定である。しかし、依然として政治的な問題等、不安定な状況も考えられるので、教育委員会も学校と十分話し合いながら様々な状況に対応していく。

二宮地区3中学校の国際交流は、10月29日からオーストラリアへの派遣を行う予定である。姉妹校締



市内中学校の国際交流事業

結に向けては、二宮地区教育国際交流検討委員会が今年3月に保護者等に実施したアンケートで、お互いにホームステイ形式で交流することは、異文化の理解や国際的な友達の形成に良い活動であると感じていることがわかった。教育委員会としては、保護者等への啓発活動を行いながら、姉妹校締結に向けて支援していく。

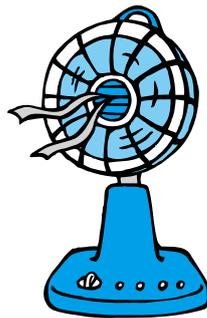
認定農業者の確保と 人・農地プランの進捗は

渡邊議員 農業経営改善計画を策定し、市町村の認定を受けた認定農業者の減少対策を伺う。また、人・農地プランの農地集積の進捗状況と周知方法を伺う。

市長 認定農業者には、米や麦等の生産に対する国からの交付金や低利融資制度等の各種施策が実施されてきた。しかし、農業者の高齢化や平成22年度から農業者戸別所得補償制度等が実施され、認定農業者のメリットが薄れている。本市では、有効期間が終了する対象者にメリット等を記載した文書を送付することで再認定を促し、

青年就農給付金等を活用して、将来の地域農業の担い手となる認定農業者の育成に努めていく。

産業環境部長 農地の出し手に交付される農地集積協力金は、昨年度は18人総額820万円を交付した。引き続き芳賀農業振興事務所等と連携を図り、広報紙等を活用して、人・農地プランの周知に努め、新たにモデル集落等を定め、説明会、座談会等を開催し、人・農地プランを推進していく。



SLキューロク館の 屋根工事を伺う

佐藤議員 本市には真岡木綿、いちごなどがあるが、やはりインパクトがあるのはSLである。そのような中で、駅東にこのSLキューロク館ができて大変期待している。



SLキューロク館の屋根

しかし、覆っていたシートが剥がれたら多くの市民からどうしてあんなに屋根がボコボコなのだろうと苦情が来た。私も「わからない。もしかしたら最初からそういう計画なのかもしれないし、その辺はわからない」と答えたが、私たちが納めた税金であのような形になるのは許せないというメールも多い。

そこで、設計の段階から屋根はボコボコに計画されていたのか伺う。

市長 SLキューロク館の屋根については、外観を蒸気機関車の形に似せるため、円筒形の特殊な形状をしており、設計の課題となった。検討の結果、建物の耐震性、耐久性、予算、防水性等を総合的に判断して、現場加工による鋼板瓦構装としたものである。

公共施設等に 防犯カメラの設置を

佐藤議員 防犯等のために多くの人が利用する公共施設等に、防犯カメラを設置すべきではないか。

総務部長 本市では、公共施設における犯罪を防止するため、全小中学校のほか、二宮コミュニティセンター、井頭温泉チャットパレス、二宮尊徳資料館、桜町陣屋、物部会館、市民課自動交付機等に防犯カメラを設置している。設置に際しては、個人情報収集することから、目的や設置場所、運用方法等を個人情報保護審査会に諮り、承認を得るとともに、真岡市防犯カメラシステムの設置並びに管理及び運用に関する要綱に基づき、厳正に運用している。

防犯カメラは、犯罪の抑止効果が期待できるものの、国民はみだりにその容貌を撮影されない自由を有していることから、犯罪の抑止を理由に、公共施設等、誰もが自由に利用できる場所へ設置することは、防犯上特に必要と判断される場合を除き、慎重に行うべきものであり、防犯カメラの設置に関する考え方に変わりはなく。

交通安全教育の推進を

木村議員 自転車に乗る人の交通マナーの悪さが目立つ。特に、中高生や高齢者に多く見られる。関係機関との連携を強化し、さらなる交通安全教育の推進に努めていきたい。

市民生活部長 中学生については、学校単位で交通安全教育を実施している。特に、自転車のマナーについては、登下校時等に校門や学校周辺で指導しており、2人乗りなど交通ルール違反の連絡があった場合にも適時対応している。高齢者の交通安全教育については、地域づくり事業の中で必須事業として実施していただいている。また、各老人クラブを対象に交通



スクアード ストレイト方式による交通安全教室

教育指導員などによる交通安全講話等を実施し、啓発に努めている。特に昨年は、真岡警察署が中心となって、軽トラック競技会や車のスピード当てっこ競技会などが実施されたところである。

今後、関係機関等と連携を図りながら、各世代に応じた交通安全教育を実施し、正しい交通マナーの実践の向上に努めていく。

五行川二宮遊水地の有効活用を

木村議員 五行川二宮遊水地に、高根沢町にある鬼怒グリーンパークのような子どもから大人まで楽しめる憩いの広場を設置してはどうか。

本市の地域活性化はもとより商工・産業にも、潤いある事業として期待するものである。

市長 五行川二宮遊水地の整備状況は、事業主体である栃木県真岡土木事務所が確認したところ、左岸側B池29haの整備を進めている。また、今年度は、下流側下池と中池を結ぶボックスカルバート設置工事を予定しており、平成24年度

末の整備率は約80%と聞いている。なお、完成時期については、継続的に整備はするが、未定とのことである。

利用計画の策定については、完成後の越流頻度、越流水量の確認を行い、利用面積を確定し、アクセス道路としても利用できる一般県道西田井二宮線整備事業の進捗を見ながら、子どもたちも利用できる遊水地利用計画の検討を進めていく。



北関東自動車道にスマートICの設置を

藤田議員 地域活性化につなげるために、北関東自動車道にスマートインターチェンジ(スマートIC)を設置してはどうかと考える。そこで、北関東自動車道の大政山トンネル付近にある管理用道路を



北関東自動車道(高田地区付近)

利用し、設置することを提案する。市長 スマートICは、料金所が簡易なもので済むなど導入コストが低く抑えられるというメリットがある。このため、各地でスマートICを設置して、地域経済の活性化につなげようという動きが出ている。

しかし、設置するためには新たなアクセス道路などの整備が必要となる。現在、高田地区にある北関東自動車道へ進入できる乗り入れスロープについても、ネクスコ東日本の管理用道路であり、高速道路の安全基準からも一般車両の進入、退出はできないので、アクセス道路にはならない。

また、事業費の財源確保や採算性なども重要な判断材料となることから、現状ではスマートICの設置は難しいものと考えている。

栃木SCのマザータウンに名乗りを

藤田議員 廃校となった学校の校庭など遊休施設や現在建設中である総合運動公園陸上競技場サッカー場を活用し、栃木SCの練習拠点を本市に誘致すること、つまりマザータウンとして名乗りを挙げることができないか。

市長 栃木SCのトップチームは、天然芝のグラウンドしか使用しないとのことであるので、廃校となった学校の校庭を練習施設として活用することは難しい。一方、今年度より、栃木SCのジュニアチームが、きぬわいわい広場を練習場として使用しており好評である。加えて、現在、栃木SCからの要望により、きぬわいわい広場を練習場として、旧長沼北小の一部をミーティングルームとして使用する協定の締結を検討している。

また、総合運動公園陸上競技場サッカー場を活用することについては、栃木SCに練習場として提供した場合の使用頻度や芝への影響、マザータウンとなった場合のメリットなどを総合的に考慮して検討していきたい。

学校図書館の運営状況と 司書教諭の配置状況は

苅部議員 児童・生徒への読書指導は、心豊かな生涯学習者を育てる重要なことであると考えます。

そこで、学校図書館蔵書を充実させるための児童・生徒1人あたりの予算額と児童・生徒の活用状況について伺う。また、司書教諭の配置状況について伺う。

教育長 教育委員会では、学校図書館の図書購入費を毎年予算化し、計画的な図書整備に努めているところである。平成25年度の図書購入予算額は、小学校が児童1人あたり1173円で、中学校が生徒1人あたり1933円である。

児童・生徒の活用状況については、平成24年度の図書室貸出冊数が、



市内小学校の学校図書館

小学校で6万427冊、中学校で1万2275冊となっている。

司書教諭については、小学校12校、中学校6校に配置している。さらに本年度から司書教諭とは別に市内小学校のうち5校をモデル校に指定し、学校図書館充実化研究事業に取り組むため、専任司書を配置し、児童・生徒の読書活動の充実に努めていく。

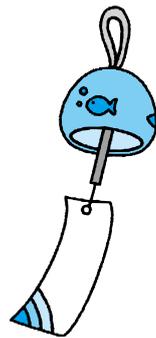
小・中学校へのエアコン設置と 児童・生徒への効果は

苅部議員 今年度、大内中央小と山前中に空調設備を整備する予算が計上されているが、この2校を選定した根拠を伺う。また、空調設備の整備による児童・生徒への効果と健康面への影響を伺う。

教育長 市内の中規模校で耐震補強工事の影響がないことを条件とし、小学校では各地区の中心校から大内中央小を、中学校では耐震補強工事が未実施である真岡中、物部中を除く7校のうち小学校で選定した大内以外の地区から山前中を選定した。この2校については、設定温度や稼働時間などのデー

タを集め、今後の整備や適正な運用に役立てたいと考えている。

空調設備の導入は、学習環境をより快適にすることを目的とし、夏の暑さの中でも、学習に集中できるとともに、室内における熱中症の予防にもなる。教室での使用にあたっては、運用マニュアルを作成し、児童・生徒の健康管理に十分気を配りながら、環境に対する負荷に配慮した空調設備の整備を図っていきたいと考えている。



指定ごみ袋の 価格引き下げを

飯塚議員 来年4月から導入される指定ごみ袋の価格は、1枚あたりの単価が高すぎる。率直に価格の引き下げを求めます。

市長 ごみの有料化は、全国でも6割を超える自治体で取組がなされ、ごみ減量化に一定の成果を



指定ごみ袋(案)のイメージ

げている。また、ごみの排出抑制につながることも、ごみ量に応じた費用負担の公平性が図られ、ごみ減量の効果が期待できる。

ごみの有料化の導入にあたっては、昨年8月30日に真岡市ごみ有料化等検討委員会を組織し、ごみの有料化の必要性や指定袋の大きさ、価格等について検討し、3月18日に答申をいただいた。その答申書をもとにごみ有料化の実施案を策定し、さらに市民から多くの意見を求めるため、4月9日から5月6日までの28日間、パブリックコメントを実施した。

指定ごみ袋の価格については、5月8日に真岡市公共料金審議会に諮問し、5月22日に答申をいただいた。答申された価格は、45ℓが1枚50円、30ℓが1枚30円、20ℓが1枚20円であった。指定ごみ

袋の価格については、県内の事例を研究し、多くの市民の意見を参考に検討し決定した価格である。これらの周知については、7月から始まる地域説明会で、詳しく説明し、スムーズに移行できるようにしていきたい。

並木町一丁目地内の 街路樹を見直す考えは

飯塚議員 並木町一丁目の歩道に植栽されているシンジュは、成長の早い樹木であり、植栽されてから約35年が経過し、幹周りが太く、枝の成長も早い。毎年9月頃に剪定されているが、維持・管理費の見直しが必要である。

そこで、経費節減のためにも、成長の遅い樹木に植え替えるなど、街路樹を見直す考えはあるのか伺う。

市長 並木町一丁目の両側の歩道には、真岡駅西土地区画整理事業に伴い、約40年前にシンジュが植栽されている。毎年、剪定や修繕及び清掃などの適切な維持管理を実施しているため、現在は、見直しする予定はない。

二宮尊徳翁の NHK大河ドラマ誘致を

柴議員 二宮尊徳翁を題材にした大河ドラマ誘致の取組と今後の展開について伺う。

二宮尊徳翁が取り上げられれば、真岡の観光事業にとってこれ以上ない起爆剤となる。本市がリーダーシップを持って誘致に取り組んでいただきたい。

市長 本市では、全国報徳研究会市町村協議会の内部組織である二宮尊徳NHK大河ドラマ化推進委員会に参加し、誘致活動を進めている。同委員会では、平成19年と21年にNHKに対して要望書を提出し、平成22年8月には、「現時点ではドラマ性、時代性の観点から大河ドラマ化



二宮尊徳翁の銅像と二宮尊徳記念館

は困難であるが、シリーズ物や短編番組なら可能性がある」との回答を得ている。

今後は、全国報徳研究会市町村協議会が開催している全国報徳サミット等を活用し、尊徳翁の功績等を全国に広めつつ、更に、平成26年度秋には全国報徳サミットが本市で開催することが決定している。本市独自に尊徳翁の功績等をNHK関係者に伝えていく。

観光資源を結びつける戦略と 観光基本計画を策定する考えは

柴議員 市内の観光資源をどのように「線」で結びつけていくのか、観光客に2度、3度と訪れてもらうための戦略をどう打ち出していくのか伺う。また、観光分野に特化した基本計画を策定する考えはあるのか伺う。

市長 本市では観光ネットワーク事業の中で、本市の良好なイメージの創出及び市内外への情報発信に加え、観光まちづくりの担い手育成にも取り組んでいる。今年度は、市内の観光資源等を

案内する観光コンシェルジュの育成、また、市内の観光拠点で、観光体験プログラム等を市民団体が提供することで誘客を図る市民プログラム活動に関する仕組みづくりとその担い手の育成を予定しており、観光資源の魅力をより強く発信できるものと考えている。

人事案件

任期満了に伴う、次の人事案件に対し、適任者と認め同意及び推薦しました。

◆真岡市固定資産評価員
中里 滋氏(西田井)

◆真岡市

固定資産評価審査委員会委員
椎員 省市氏(荒町三丁目)

◆人権擁護委員

福村 典正氏(台町)

第6回 議場コンサートを開催!

真岡市議会では、市民の皆さまにより親しまれ、気軽にお越しただける議会を目指して、議場コンサートを開催しています。

今回の議場コンサートは、「たんぼ&シエルシティハーモニー」の皆さんをお迎えし、6月10日(月)に開催しました。『ド

次回の議場コンサートは、12月定例会に開催する予定になっています。お気軽にお越しください。

